



孝孫
里足
八犬傳

七

^ 13
3704
7



門 へ 13
號 3704
卷 7



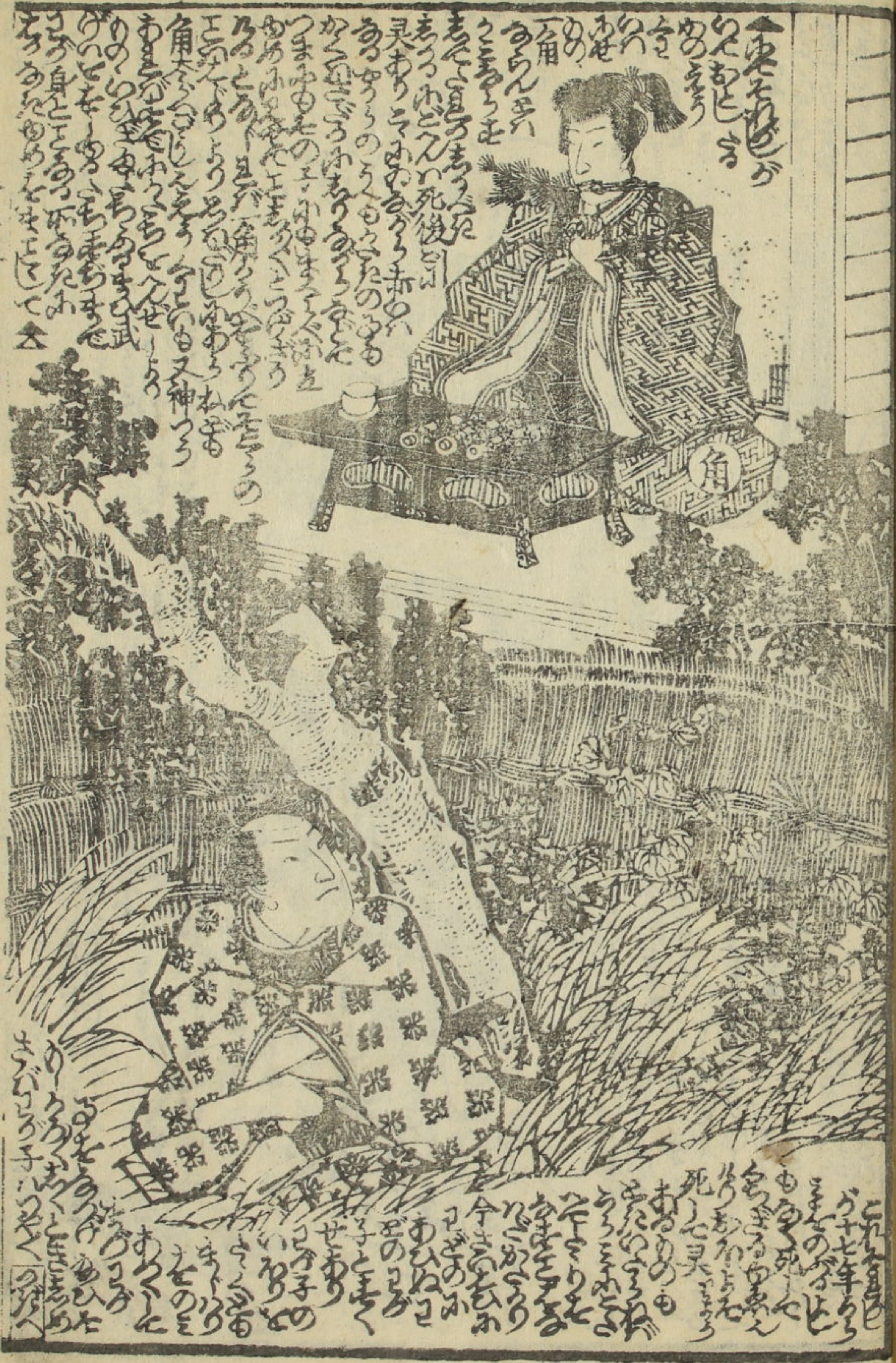
辛亥の冬十一月の頃短景と夜小繼て楓々る松風の音と友して書讀む字
窓小訪に来る者ハ祖父の時より舊識多ク文溪堂の主人未意甚麻と尋
ゆる小四年先づ頃より這書賈が刊行昔國字讀大傳の合巻ハ彼棋尾子
附青樓るる千里の外ま行々現唐山多下俚巴入其曲高からざる故小
和音ののの衆多是策子由亦その類也巧致の文ハ刪去り推蒙の為小
解一易をを音そ然る小是抄録せ者いさる故のあとの本編より後々
生予小抄録して賜乞へる祖父の作と抄録するハ面目ある小似れぬも拙
強顔く推辞むも本意あるねばやうや小兼引く燈下小亮る筆を添て夫々
斯く曾子と世の朝由三省せ恥赫ちし序びて白地小誌まふらん

嘉平五子春稿成同六癸丑初春發市

鳳簫菴琴童識

大專ト七編



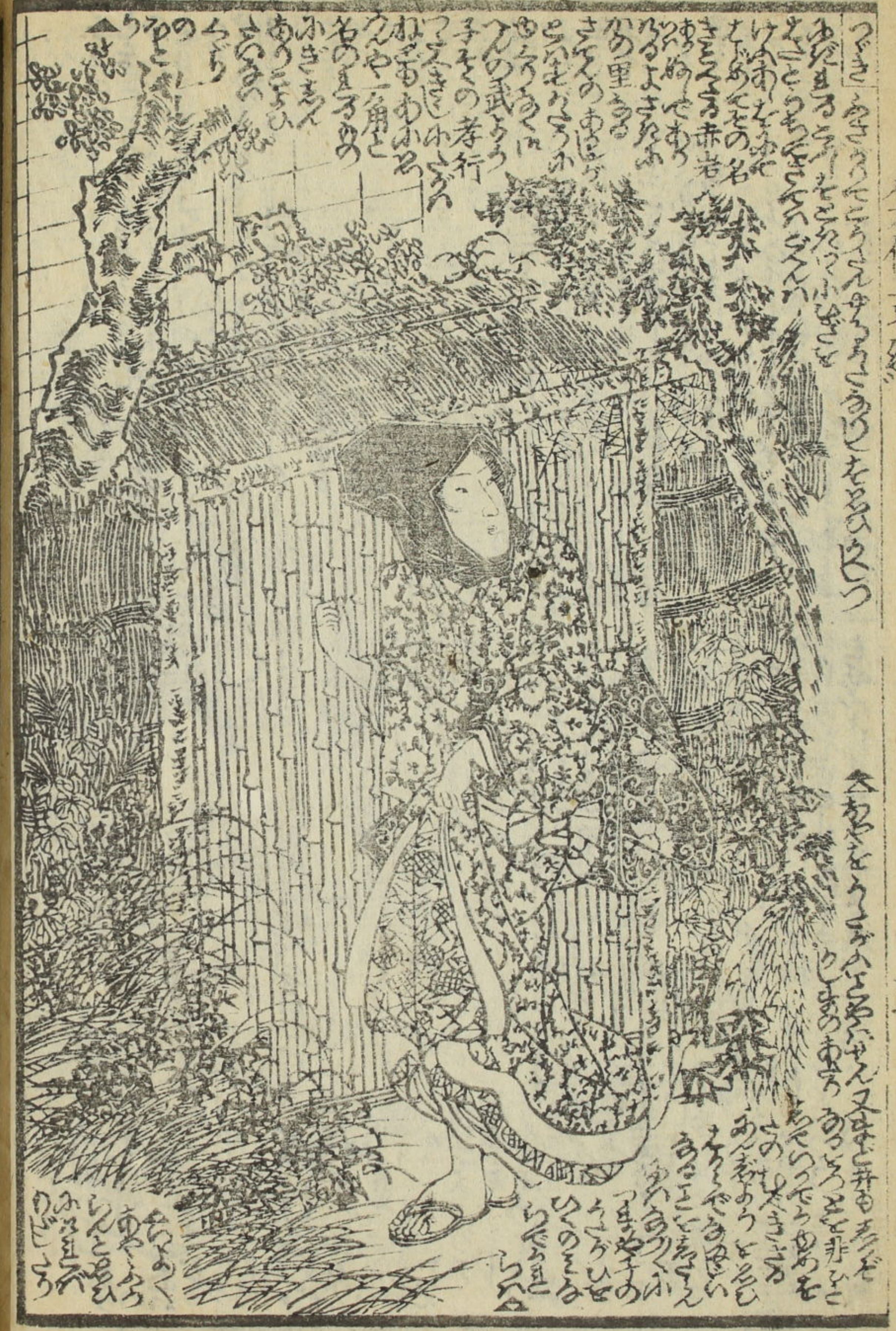


大正二年編

此の物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名が
 残っている。

角の物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名が
 残っている。

角の物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名が
 残っている。



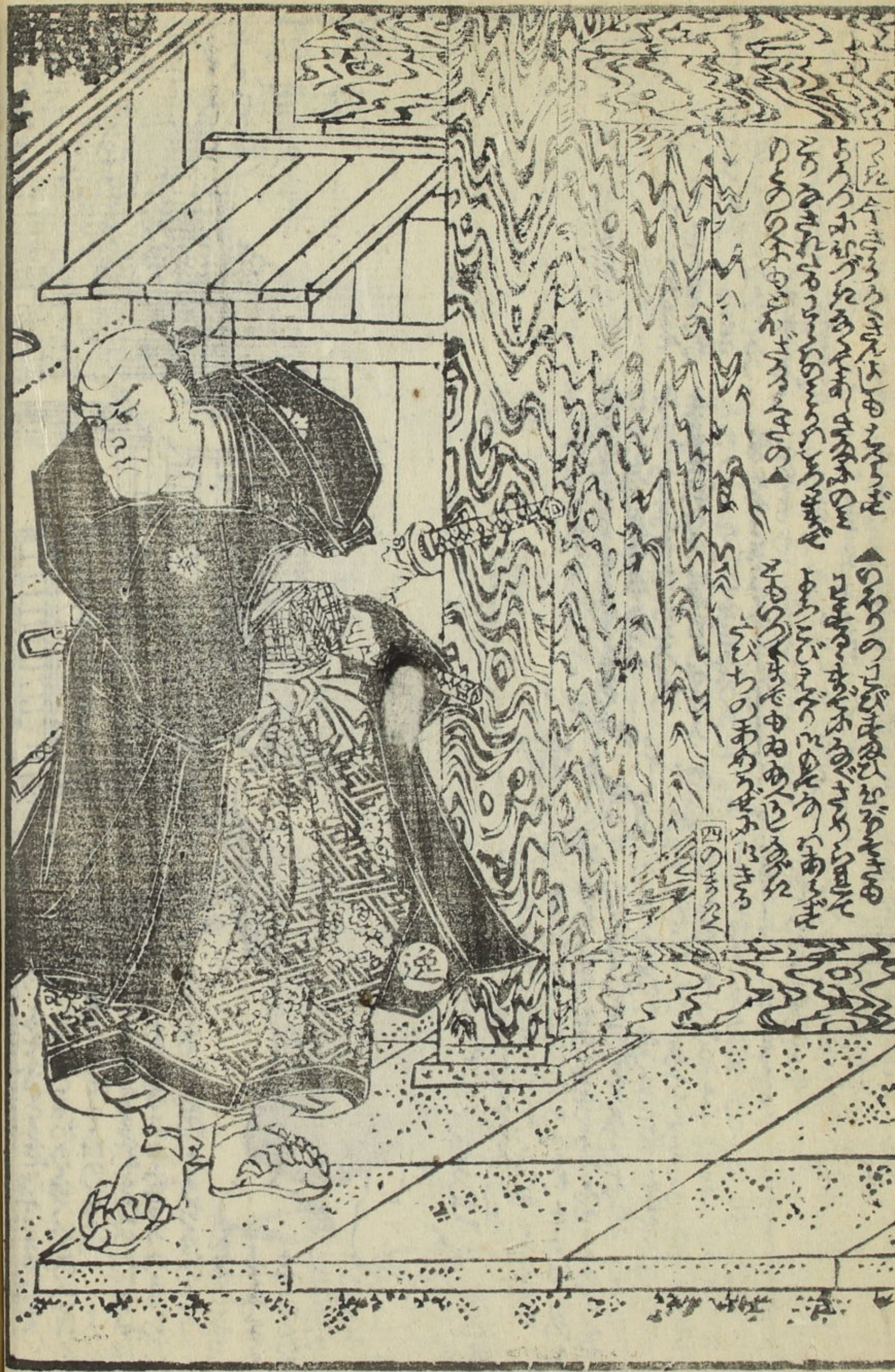
大正二年編

この物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名が
 残っている。

この物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名が
 残っている。

この物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名が
 残っている。

いふにこの世は...
さういふに...
いふにこの世は...
さういふに...



三の巻
いふにこの世は...
さういふに...
いふにこの世は...
さういふに...

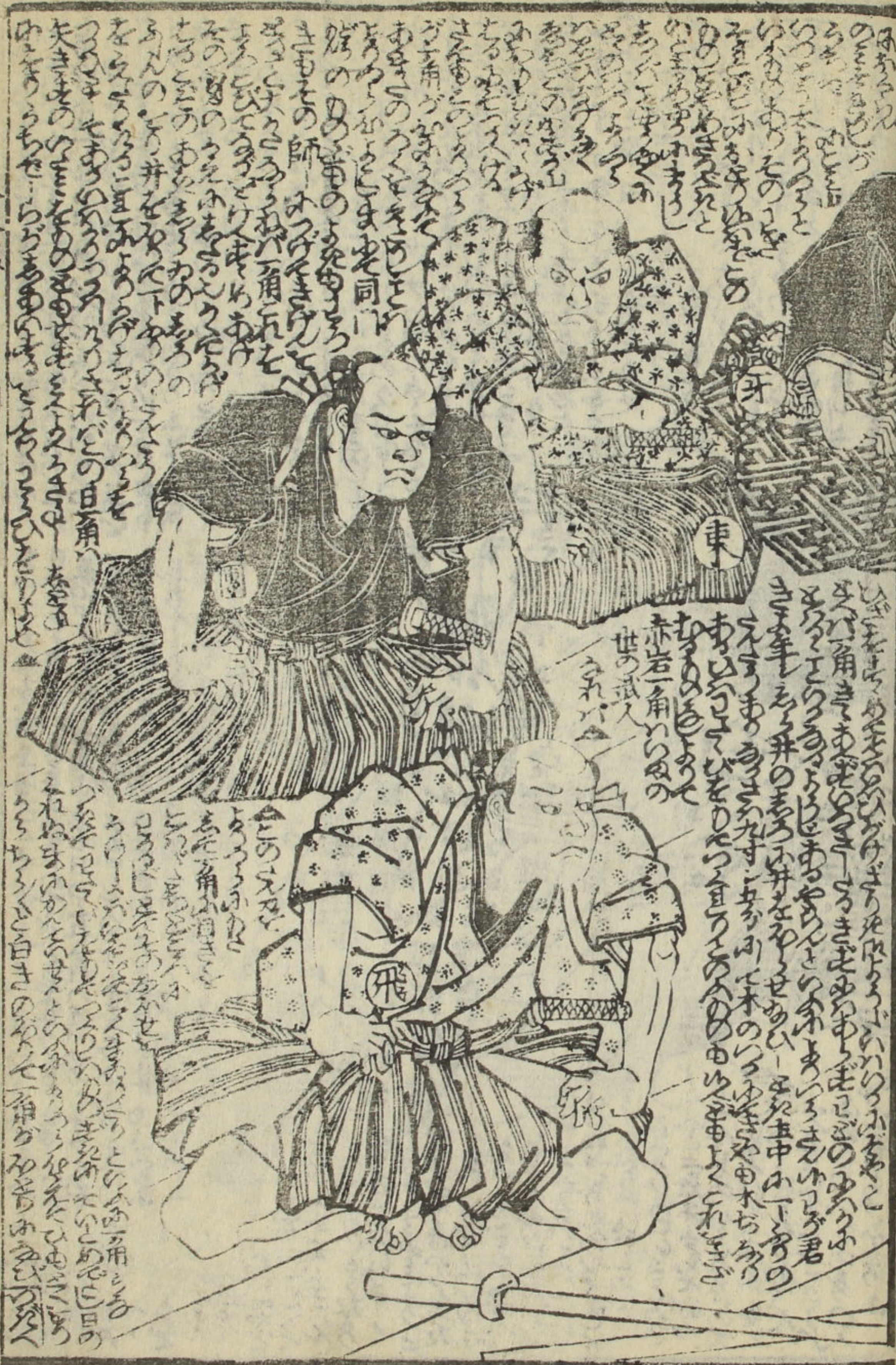


これより先は... 赤岩の... 一角... 赤岩の... 一角... 赤岩の... 一角...



赤岩の... 一角... 赤岩の... 一角... 赤岩の... 一角...

赤岩の... 一角... 赤岩の... 一角... 赤岩の... 一角...

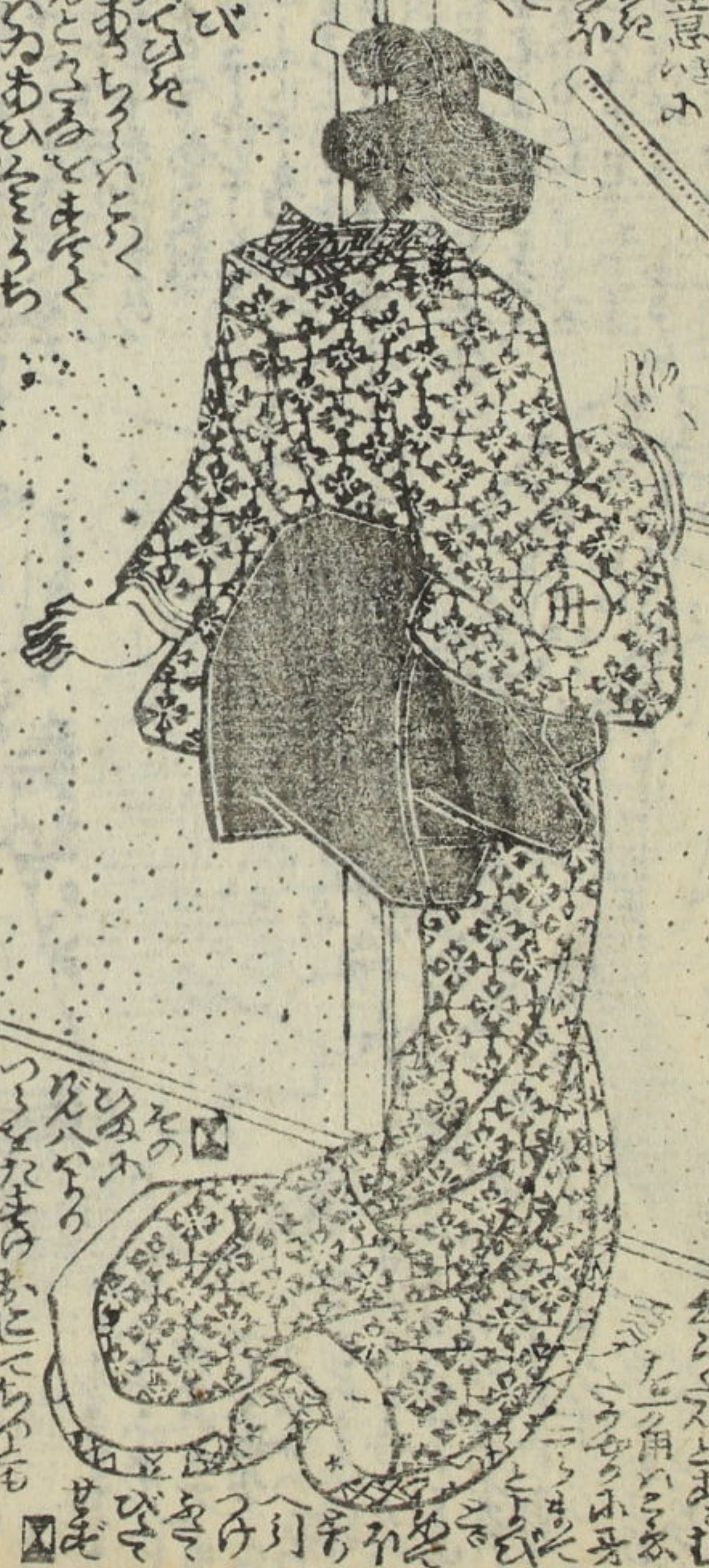


赤岩の... 一角... 赤岩の... 一角... 赤岩の... 一角...

赤岩の... 一角... 赤岩の... 一角... 赤岩の... 一角...

九代十七卷

一勇齋國芳画



鳳簫菴琴童鈔録

文運の盛衰ハ世道の汚隆ハ係り有之也 御代の徳澤ハ文運...

文運の盛衰ハ世道の汚隆ハ係り有之也 御代の徳澤ハ文運...

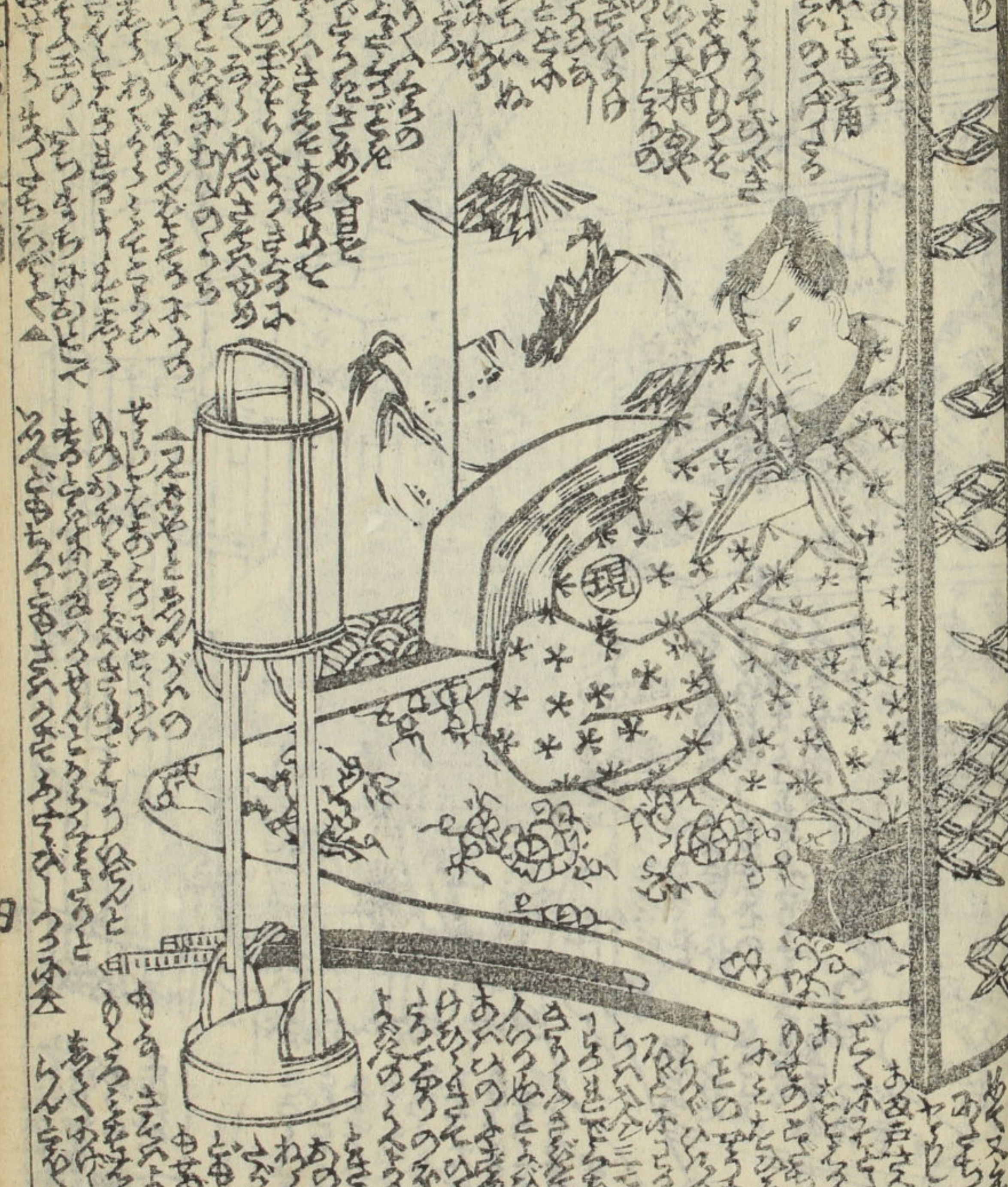
嘉永壬子年春稿成同六壬午初春新刻 鳳簫菴琴童誌

一勇齋國芳画

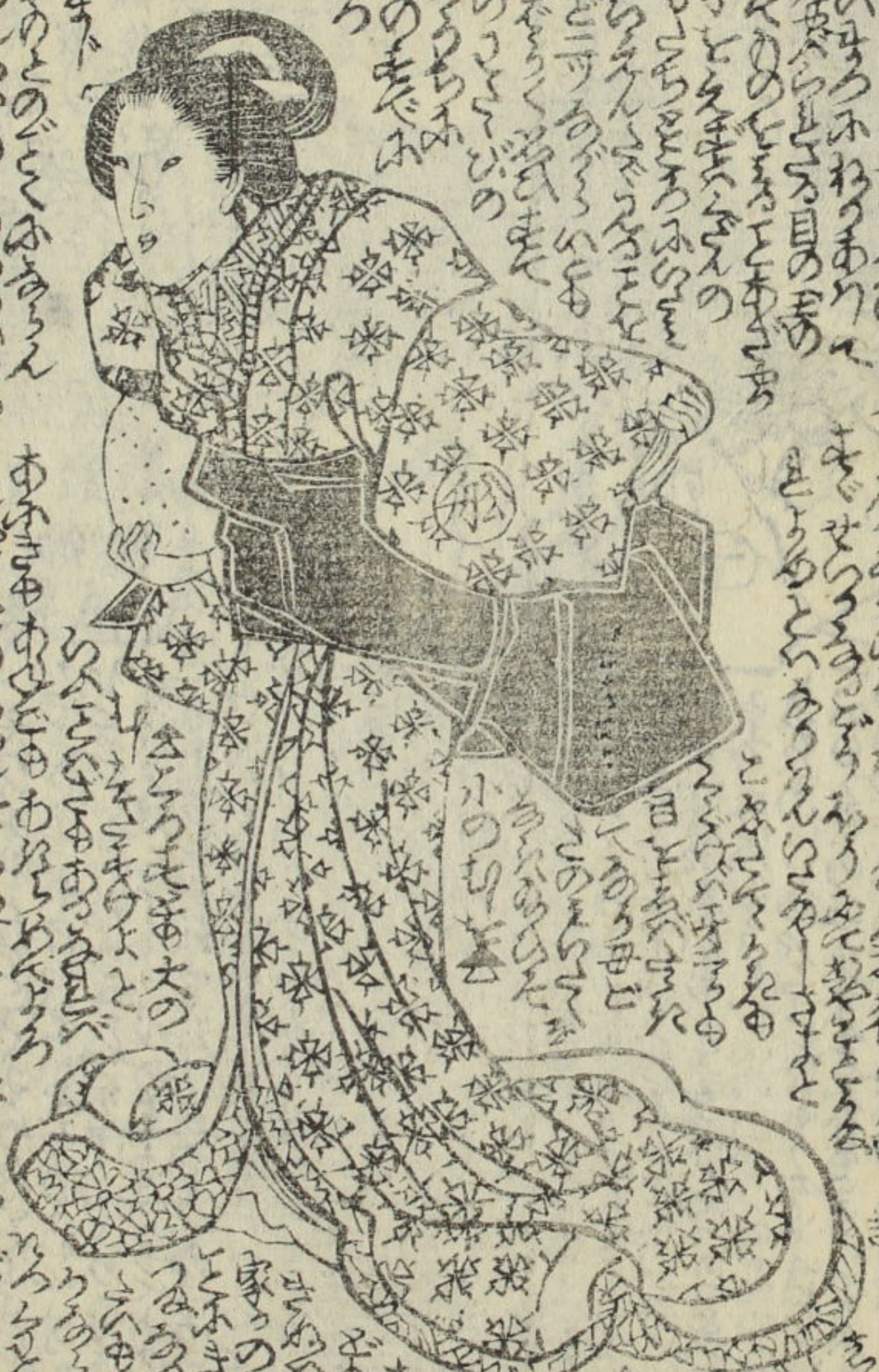
上段の文は、物語の序の詞に似て、登場人物の身分や状況を説明している。下段の文は、二人の対話や内心の独白を記述している。文字は縦書きで、読み手にとって読みやすいように配置されている。



上段の文は、物語の序の詞に似て、登場人物の身分や状況を説明している。下段の文は、二人の対話や内心の独白を記述している。文字は縦書きで、読み手にとって読みやすいように配置されている。



上世の... 四月... 母の... 子... 母の... 子... 母の... 子...



その... 子... 母の... 子... 母の... 子... 母の... 子...

八代十八

その... 子... 母の... 子... 母の... 子... 母の... 子...



その... 子... 母の... 子... 母の... 子... 母の... 子...

琴童抄録

國芳画

その... 子... 母の... 子... 母の... 子... 母の... 子...





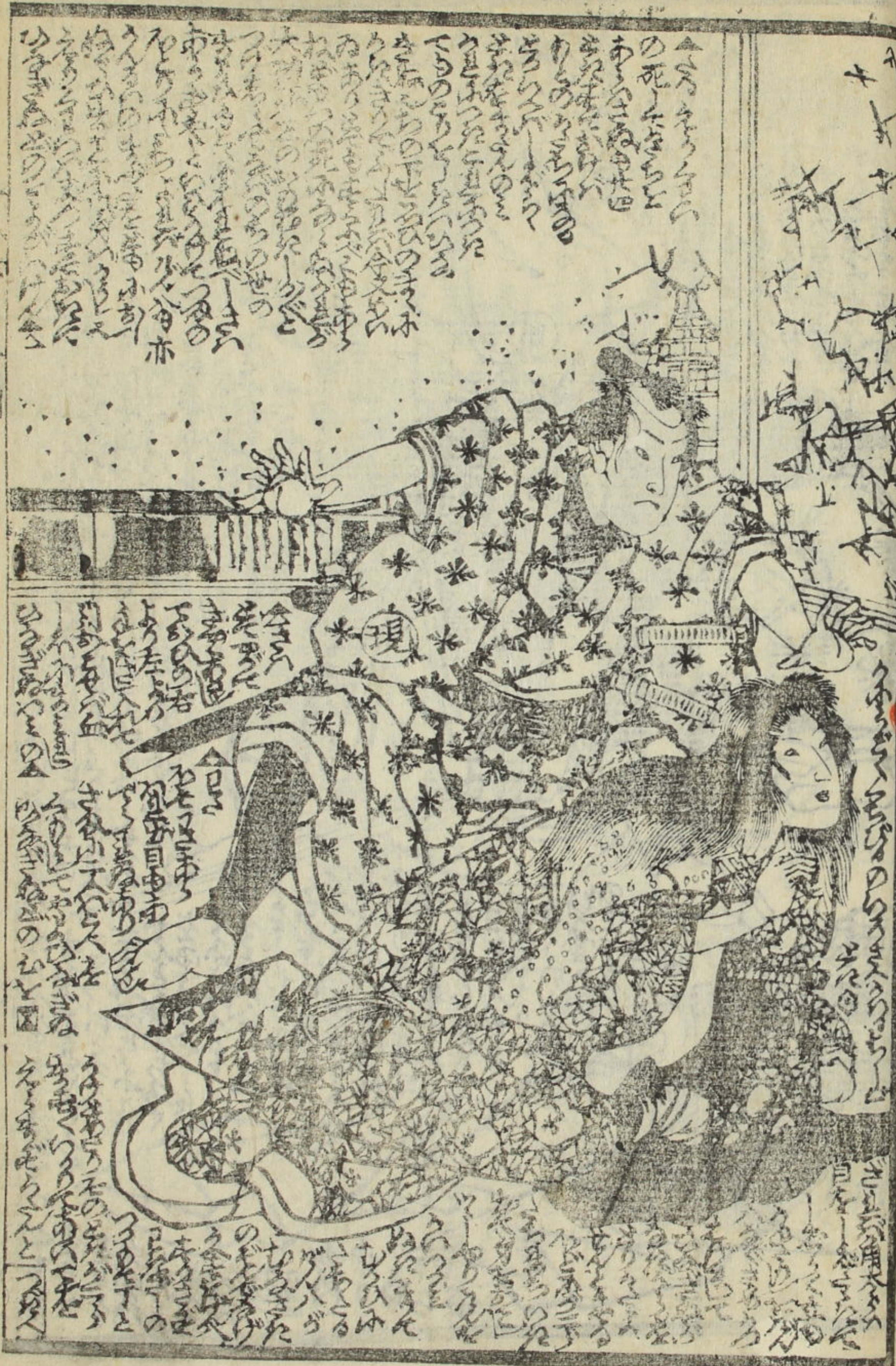
大正のあひうらちの...
 けふのこころの...
 くまのあはれ...

大正のあひうらちの...
 けふのこころの...
 くまのあはれ...



大正のあひうらちの...
 けふのこころの...
 くまのあはれ...

大正のあひうらちの...
 けふのこころの...
 くまのあはれ...





家傳神女湯... 世の為に... の為に...

家傳神女湯... 精製奇應丸... 熊胆黒子... 婦人活命の妙藥... 製本家... 弘竹 元服田中...

宗貞... 其志... 家傳の方... 嚴...

一勇齋國芳画



鳳簫菴琴童抄録

琴童... 見... 正の序...



家傳神女湯... 一口物... 魚傳... 今... 行...

嘉永七甲寅喜

曲亭琴童識



三車一しる冊

山
ねこみあそを
あつてあど
るさあそ
まのめあ
とみ二天土の
たてたて



大傳十九編

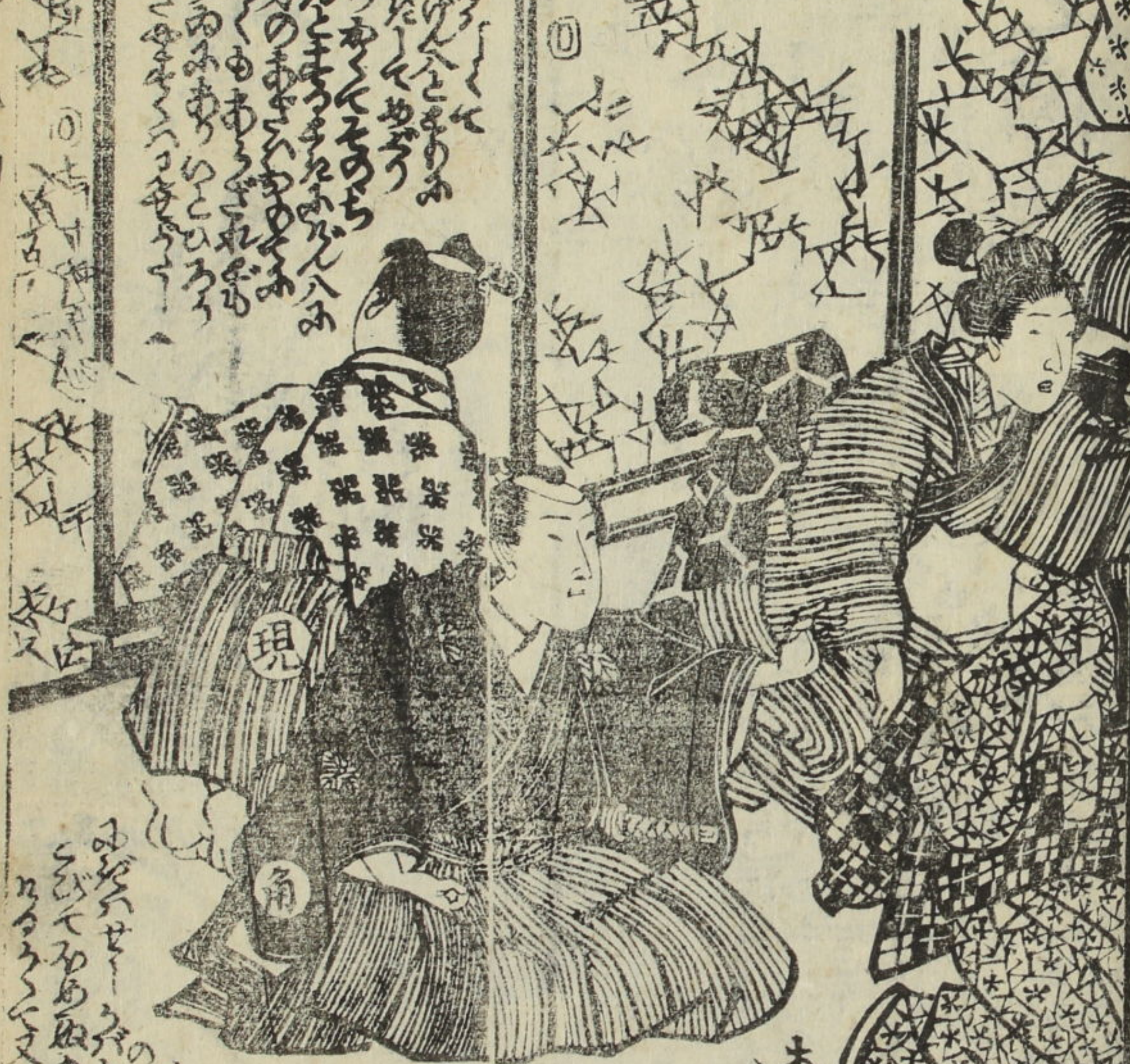
つたてまうひちりしむらまをさうあ
る人をひたあれとひま
まぬぐ自さろのあも
むたあを一角あすの
のひちりしむらまをさうあ
とちりしむらまをさうあ
まぬぐ自さろのあも
むたあを一角あすの

ありまのさ
ありまのさ
ひまぬが死を
あつてあど
るさあそ

あつてあど
るさあそ
まのめあ
とみ二天土の
たてたて
あつてあど
るさあそ
まのめあ
とみ二天土の
たてたて

五

又ひきまぬがけの...
 七目く...
 犬川...
 小久...
 太山...
 せう...
 うち...
 げん...
 げん...



人のあし...
 五十余金...
 四百...
 二百...
 角...
 西家...
 角...

又ひきまぬがけの...
 七目く...
 犬川...
 小久...
 太山...
 せう...
 うち...
 げん...
 げん...



十月...
 五十...
 角...
 西家...
 角...

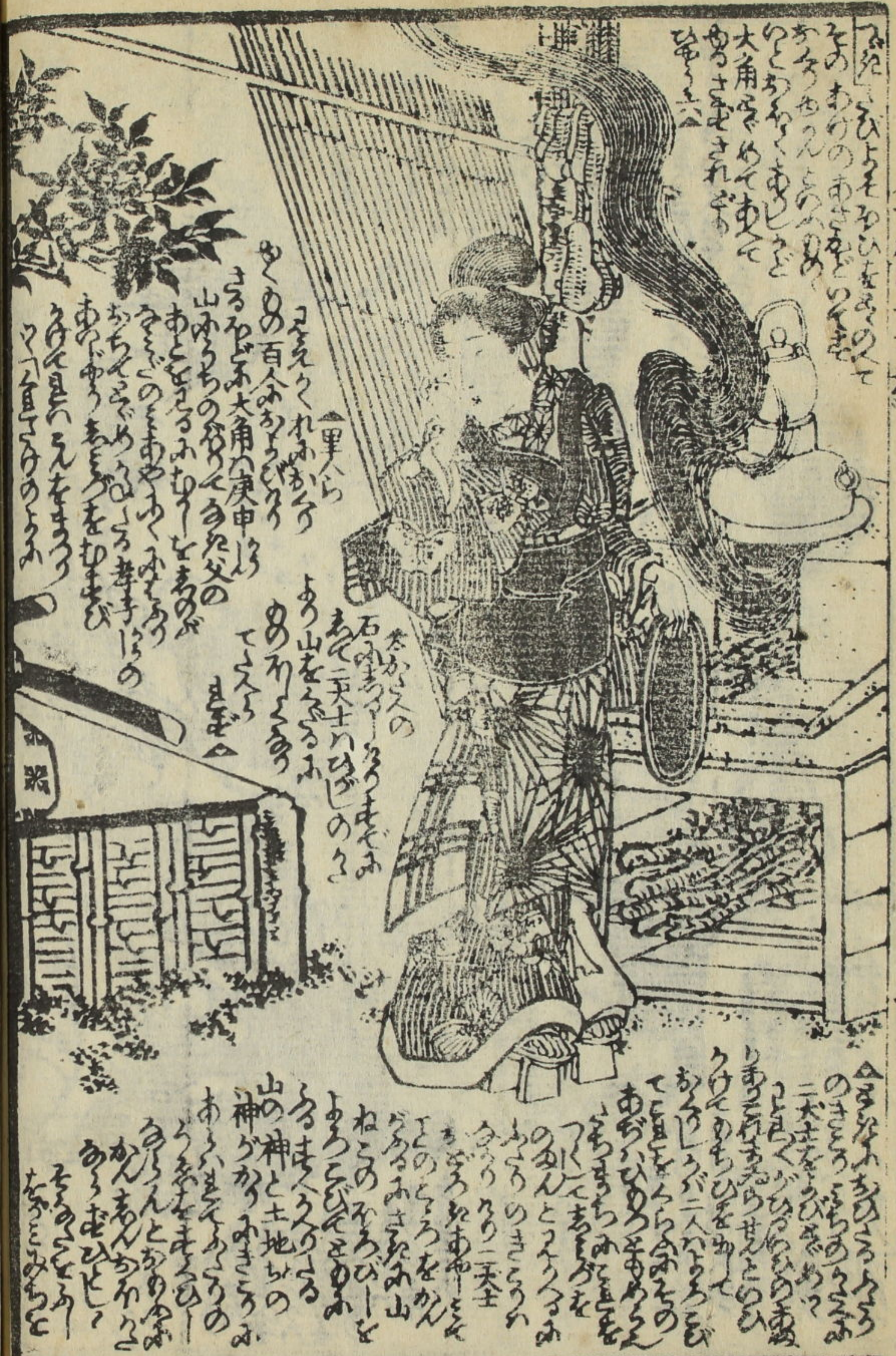


あはれあやのこころ
けんあををいさめ
いふのうけえ
このうの
うを
よみのを
いさ

現

平八
き女
不あり
か八

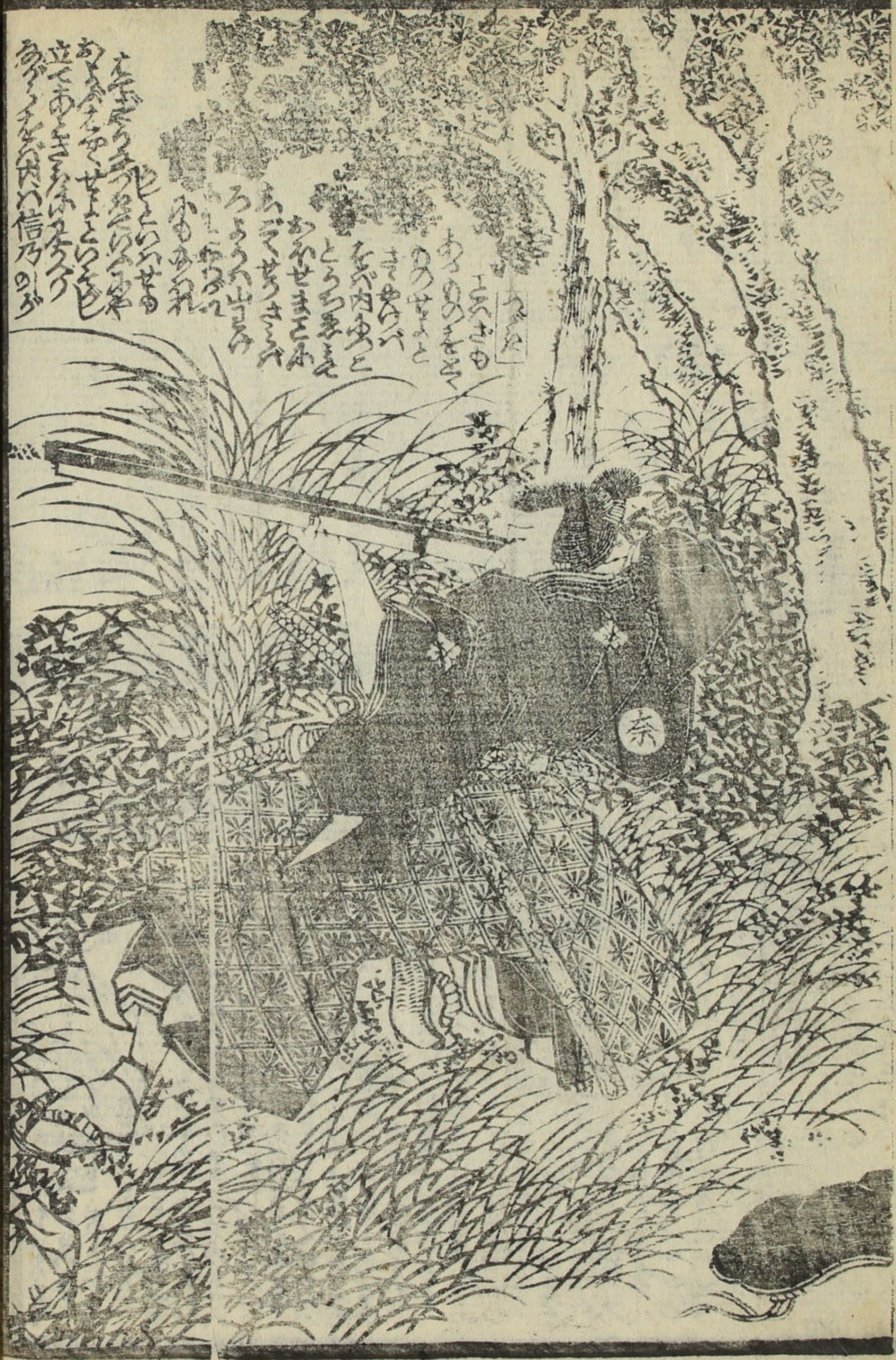
あ



あはれあやのこころ
けんあををいさめ
いふのうけえ
このうの
うを
よみのを
いさ

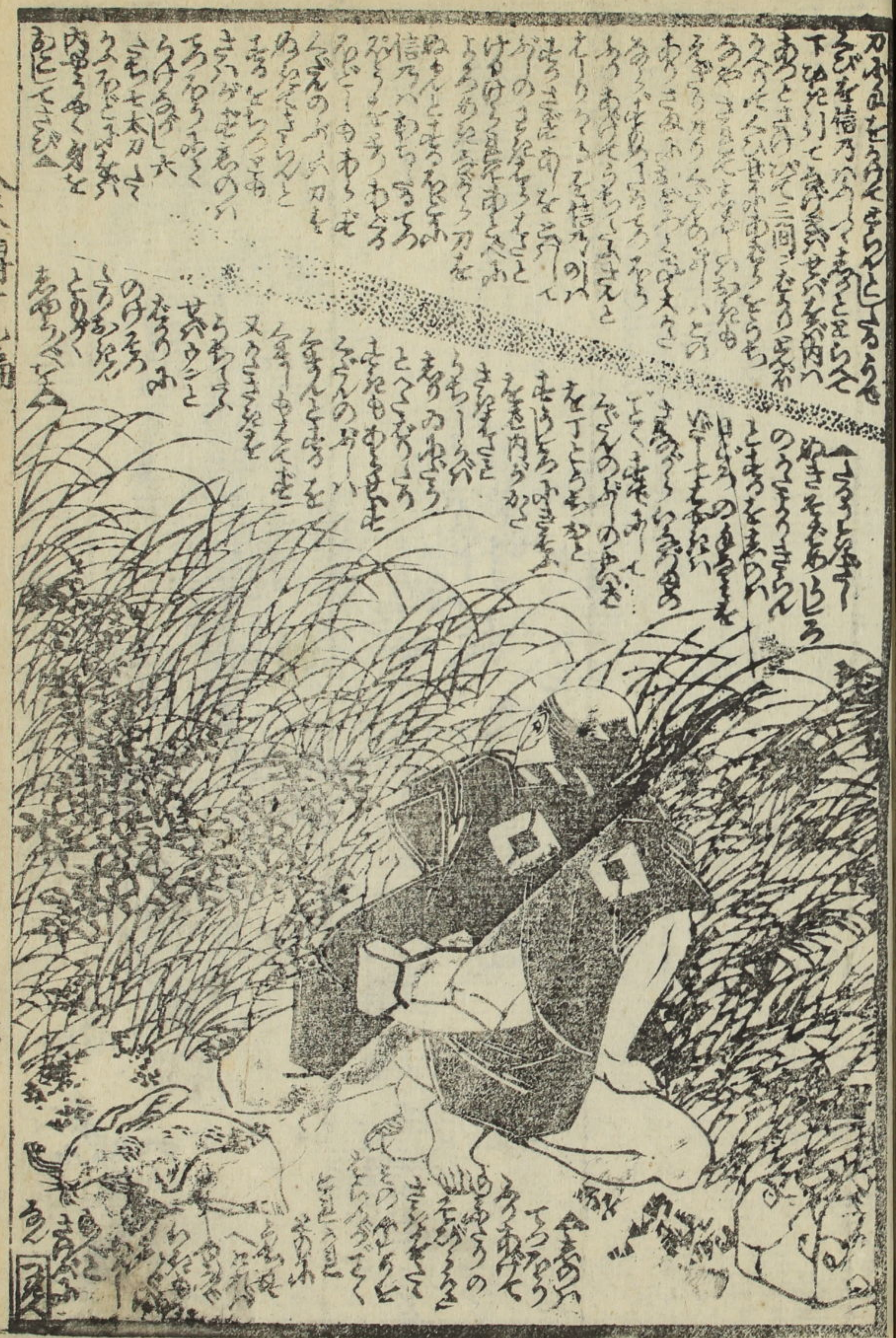
あはれあやのこころ
けんあををいさめ
いふのうけえ
このうの
うを
よみのを
いさ

あはれあやのこころ
けんあををいさめ
いふのうけえ
このうの
うを
よみのを
いさ



大傳十九卷
茶の事
茶の葉を採りて
焙じて茶葉とす
茶の葉を採りて
焙じて茶葉とす
茶の葉を採りて
焙じて茶葉とす

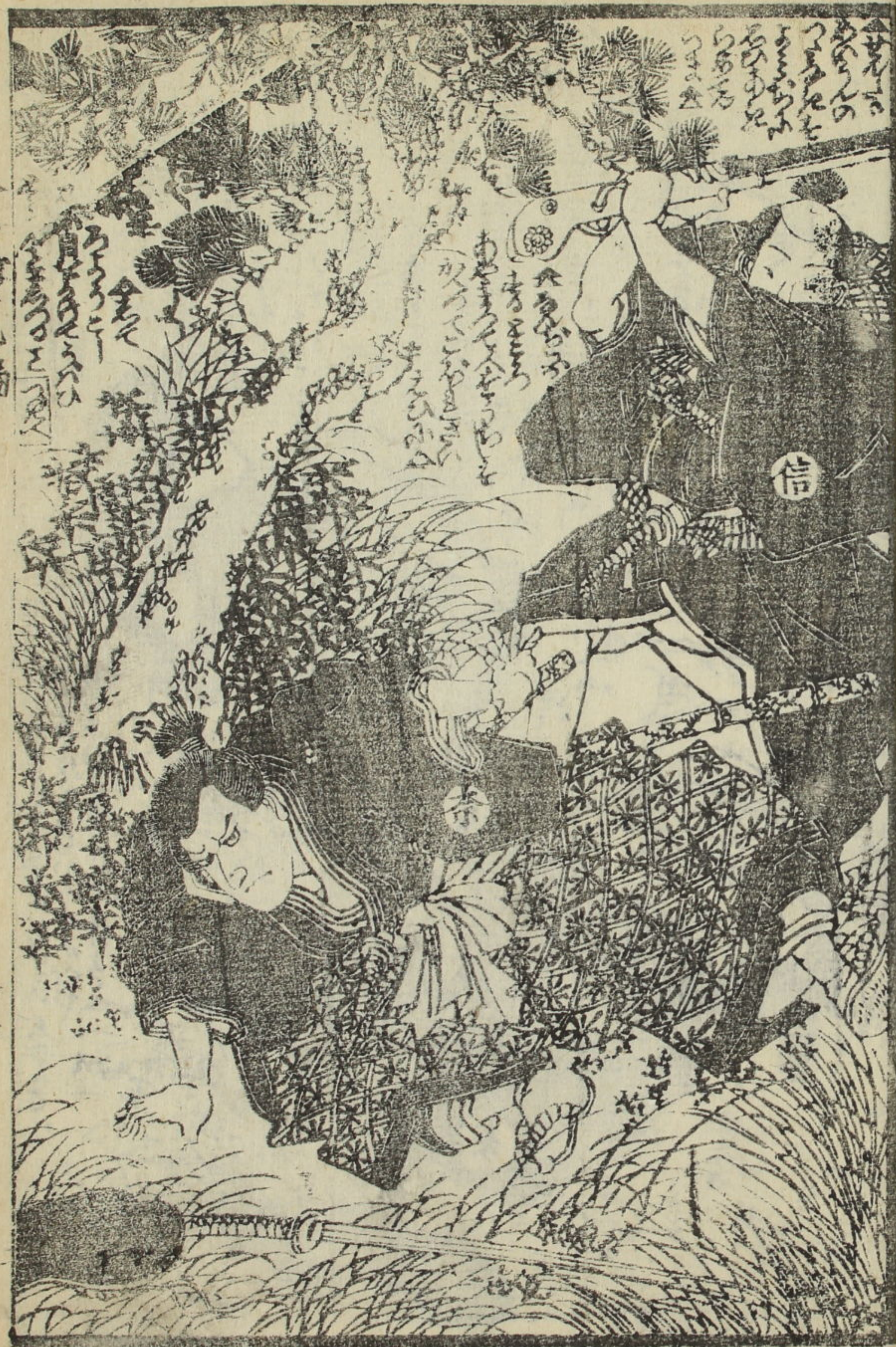
茶の葉を採りて
焙じて茶葉とす
茶の葉を採りて
焙じて茶葉とす
茶の葉を採りて
焙じて茶葉とす

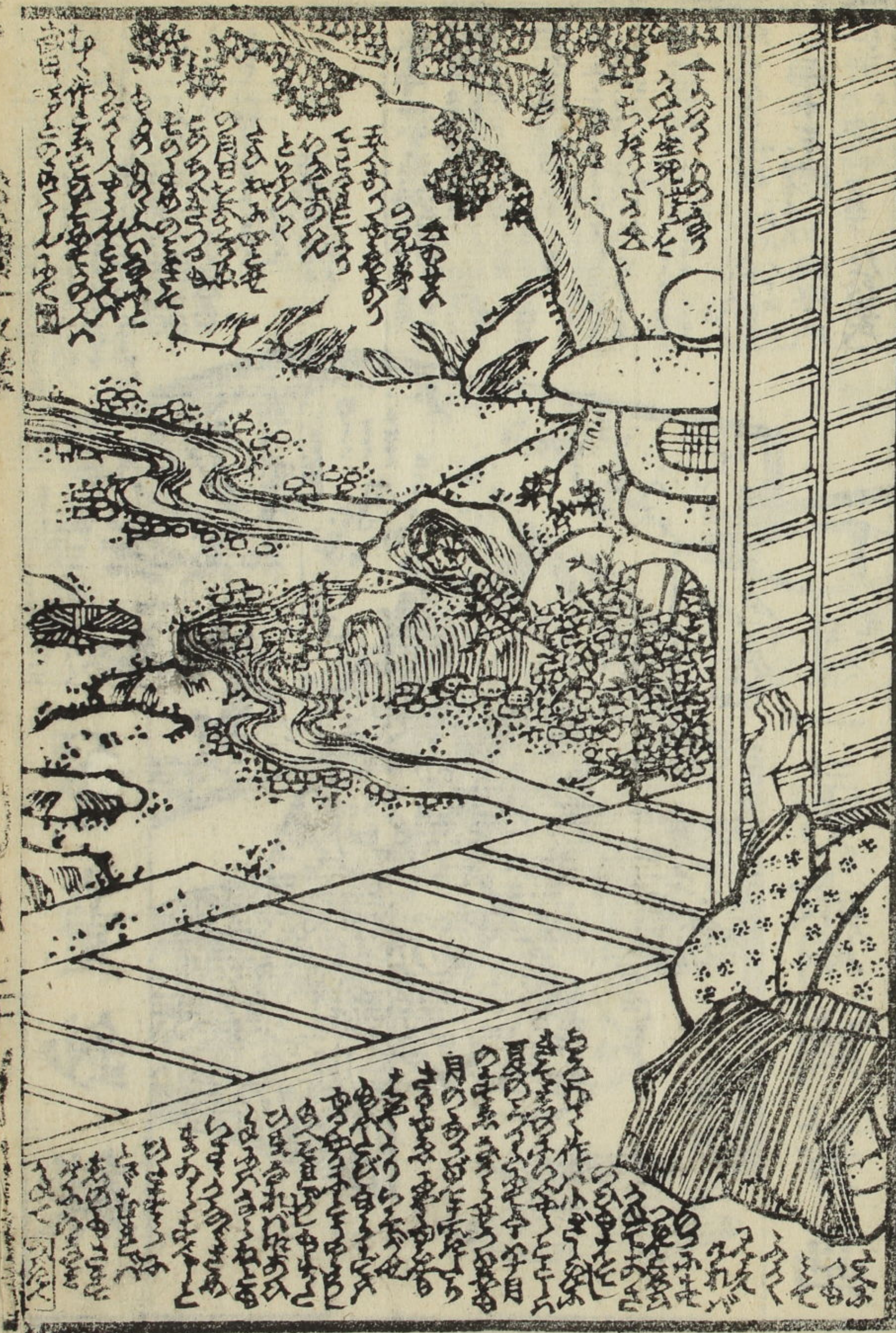


茶の葉を採りて
焙じて茶葉とす
茶の葉を採りて
焙じて茶葉とす
茶の葉を採りて
焙じて茶葉とす

茶の葉を採りて
焙じて茶葉とす
茶の葉を採りて
焙じて茶葉とす
茶の葉を採りて
焙じて茶葉とす

茶の葉を採りて
焙じて茶葉とす
茶の葉を採りて
焙じて茶葉とす
茶の葉を採りて
焙じて茶葉とす





あつたのり
ふりて死に
たれは
あつたのり
ふりて死に
たれは
あつたのり
ふりて死に
たれは

あつたのり
ふりて死に
たれは
あつたのり
ふりて死に
たれは
あつたのり
ふりて死に
たれは



あつたのり
ふりて死に
たれは
あつたのり
ふりて死に
たれは
あつたのり
ふりて死に
たれは

あつたのり
ふりて死に
たれは
あつたのり
ふりて死に
たれは
あつたのり
ふりて死に
たれは

